

# 鵠沼海岸 ビーチクリーンナップ

小田島厚  
(東船大N15)

## 学生7名が参加

低気圧が縦横無尽に通過する季節の中、その日ビーチクリーニングを執行するか否かを決定するのは至難の業で、幹事泣かせの嫌な季節である。遠くは埼玉県からの参加者もあり、家を出るのが驚くほど早く05時30分と言う。空を見上げると曇天である。この胡乱な天気は幹事にとって悩みの種である。主催者JEANに聞くと06時30分以降でないと返事が出来ないと言う。「神のみぞ知る」正に神の代弁をするしかない。「今日は決行します」と。

明るくなりつつあるも、やはり落ち着かない。やっと待ちに待った06時30分が到来。JEANと連絡取ったら「今日は、決行します」との事。ホットすると共に go go go の士気が湧いて来る。

朝は多少小寒かったが、予報通り雨の降らない曇天の下、4月22日(日)、総員約200人で予定通り挙行された。今回は、全体の出足がパットしない。開始時間が迫っても何時もと違って頭数が寂しい。主催者ではない私でさえ憂色が走る。サッポロビールがJEANから離脱、会社単独で社会奉仕をすることが決定。昨今流行のCSR(企業の社会責任)の下、企業戦略に出たようである。参加人数の減少は、サッポロビールの離脱が原因となったのだろうか。一方、我が海洋会のメンバーは前回の倍、嬉しい限りである。あくまでボランティア活動を貫くことは以前と変わりはない。今回、とりわけ特記すべきことは、大学生7名、内、女子学生が2名参加してくれたことだ。会員全員ご満悦の様子。終了後、隣接した公園で学生と談話し、交流出来たことは我々はもちろん、学生も大いに喜んでくれたので、クリーンナップを通しての有意義な情報交換となった。これからもこのような場を継続するつもりである。

ビーチクリーニングも海岸の美化活動から地球環境問題としての取り組みへと変わり、ICC(International Coastal Cleanup)の下、日本でも海洋の

ごみに関する法律「海洋漂着物処理推進法」が3年前に制定され、本法に基づいて、春はごみ問題解決のための海洋保護・啓発活動、秋は世界中一斉にごみの収集・仕訳・調査を行い、地球規模でごみ根絶に向けて活動しているのが現状である。

「フェアトレード」、「エシカル消費」という言葉を耳にする人も多いのではないだろうか。

個人・機関団体はもちろん、CSRが急速に進化している昨今、ボランティア・スピリットの考え方も往時とは大きく変化している。日本政府は、TPP, FTA等国内議論をするのに忙しく、その国内議論の現状・結果を最も肝心な事である世界への発信をしていないため、国際的に蚊帳の外に置かれているが、これに比し、ボランティア活動は、「フェアトレード」いわゆる、エスニック調の買い物増大に資する支援、「エシカル消費」いわゆる、日本の技術を提供して地元の産業を支援する地産地消型と、離合集散的グローバル化を目的に大きく様相を変えて活動している。そこには、昨年の東日本大震災発生の影響も多分にあると思われる。我々海洋会も海・海岸の美化に少しでも貢献出来ればと活動しているところである。

ボランティアの世界は急速に流速を増している。しかし、我が海洋会の参加人数は毎年減少している。この現象はいかがなものか。多くの会員の参加を切に希望するところである。

